

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○他者と協働し、生徒が「わかった・できた・つながった」を実感できる授業のあり方及びその評価方法について検討・共有する。	○他者の考えを知ることにより、自分の知識を深めたり広げたりできる授業展開を検討・共有する。	○自分の考えを共有したり、他者の意見を聞いたりするための場面設定や ICT 機器の活用の実践例を共有し、実践する。	○生徒による授業評価における「人の意見を知ることにより自分の考えを広げることができた」「自分の意見を表現したり話し合ったりする機会がある」の回答が、すべての教科で 85%以上「当てはまる」になったか。	○前者の項目については約 83%、後者の項目については約 90%が「かなりあてはまる」、「ほぼあてはまる」と回答している。	○ICT 機器の活用実践例については、継続して共有を図る。 ○自分の意見や考えを深め、他者と共有できる機会を設定していく必要がある。	○授業評価の結果から他者の意見を知ることにより自分の考えを広げる授業実践ができていることがうかがえる。ICT 機器の活用については、技能の向上に加え、授業内容に対する興味・関心を高めるために活用するとよいのではないか。	○生徒による授業評価をふまえて教科会で授業改善のための具体的な手立てを検討するとともに、授業において工夫している点を共有することができた。ICT 機器の活用実践例も職員会議前の時間に研修を設定することができた。	○研究授業や授業見学を通して授業方法についての検討し、組織的に授業改善を進めていく。ICT 機器の活用についても引き続き全体で生徒の興味・関心を高める工夫を検討する。
2	生徒指導・ 支援	①生徒に「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制を推進するとともに、生徒が自らの課題に気づき、その課題を解決しようとする姿勢を育てる。 ②生徒の規範意識を定着させる指導のあり方を検討し、生徒が自身を律して社会で生きていく力を育む。 ③学校行事や部活動等をとおして、他者と協同して豊かな人間関係を構築する力を育む。	①教育相談の周知と相談体制の整備を図り、相談から課題解決に至る道筋をつくる。 ②毅然たる「指導」と寄り添う「支援」の両立を図り、「安心・安全な学習環境」の確立に努める。 ③部活動加入者を増やすとともに、その活発な活動を推し進める。また、学校行事をとおして、生徒主体の運営とその活発な活動を引き出す支援を進める。	①教育相談における広報活動を充実させるとともに適切な相談につなげ、相談窓口の最適化を図る。 ②生徒の規範意識の育成と「予防」の観点を重視した指導・支援体制を構築する。 ③生徒会執行部やフロンティアチームを中心に、生徒が主体的な活動ができる場や、学校行事等で部活動が活躍できる場を設定する。	①生徒に向けて、教育相談の広報ができたか。また、解決事例を共有し、分析することができたか。 ②生徒の規範意識を育成する機会が設けられたか。また、個別最適な指導・支援が実現できたか。 ③部活動加入率が 30%程度となったか。 ・学校行事を中心に、部活動の活躍の場が広がったか。 ・生徒会執行部やフロンティアチームの活動の場を設定できたか。	①担任を通じてSC・SSWにつなげる流れは定着している。スクールメンターも含め、多様な相談・支援体制が成立している。 ②年次集会を適宜開催し、生徒の規範意識涵養を図るとともに、問題行動の未然防止へ向けた呼びかけを行った。 ③部活動加入率は29%にとどまった。 ・本年度は3つの部活動が全国大会に出場し、神奈川県活ドリーム大賞を受賞した。 ・生徒会行事では港南区若者会議に参加し、外国につながるのある生徒との共同企画を新たに行った。ボランティアにおいてはコロナ禍以来の子ども食堂に参加し、活動の幅を広げた。	①スクールメンターの認知度高めるため、広報活動を充実させる。解決事例共有を、次年度職員研修の機会に設けたい。 ②年次集会テーマを各時期ごとに整理することで、予防的措置をより充実させる。 ③部活動加入率向上のため、魅力を伝える機会を増やし、体験や動画発信で入部を促進。部活動の意義・価値を伝え、生徒の成長を支援する。 ・今後も生徒会行事やボランティア活動の充実を図る。地域とより連携を取れるように体制を整えた。	①教育相談体制は確立されている。生徒にとって、困ったことが起こった時に相談する手立てを知っておくことが大切である。 ②年次集会において、規範意識を促す指導を促すことができていた。 ③部活動の加入率は目標を達成しなかったとのことであるが、生徒の実態を考えれば加入率は高い数値であるといえるのではないか。 ・生徒会執行部やフロンティアチームのボランティア活動が活発に行われていた。その他の生徒に対してもボランティアの機会について周知し、より多くの生徒がボランティアに参加できるとよい。	①SC、SSW、スクールメンター、外部機関との連携を図り、それぞれの生徒に必要な支援を行うことができた。 ②生徒の規範意識を高めるとともに問題行動に対しては、それぞれの生徒に対して生徒の実態をふまえて適切な指導を行った。 ③部活動の加入率は微増であったが、退部率は下がっており、各部活動が活発に活動することができた。 ・生徒会の活動としてボランティアに加えて、外国につながるのある生徒との共同企画を行うことができ、校内での生徒同士の交流の場を広げることができた。	①サポートドッグなども活用しながら、困り感がある生徒をSC・SSW、スクールメンター等につなげて、教育相談体制の充実を図る。 ②引き続き予防的観点から、年次集会や各HRで規範意識を高める指導を行う。 ③部活動紹介等を通じて部活動の楽しさを発信し、さらに加入率を高めていく。 ・全校生徒に対してこれまでのボランティア活動の様子を広報したり、ボランティアの募集を呼びかけたりすることで参加者の増加を目指す。
3	進路指導・ 支援	○生徒の社会生活実践力を育成し、社会とつながり、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	①自己および他者への理解を深めることをとおして、生徒が自己の役割や責任を認識し、社会とつながる力を身につけるための支援を行う。	①「総合的な探究の時間」を中心とした学習活動や外部機関等を活用した様々な体験活動をとおして、社会とのつながりや働くことの意味等に対する理解を深めさせる。	①「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア形成に係るプログラムを、各年次で計画的に実施することができたか。	①各年次とも「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア教育プログラムを計画的に実施し、社会や職業、働くことの意味などに対する理解を深めさせた。	①勤労観、労働観をより効果的に育成するため、「総合的な探究の時間」と他教科との連携を強化する。	①1 年次より計画的にキャリア教育が実践されていた。キャリア教育の学びによって、生徒は就職・進学のために、何を取り組まなくてはならないのかが明確になるのではないか。	①今年度の卒業生の進路状況については、「その他」の項目にあてはまる生徒が減少し、キャリア教育を通じて、一人ひとりに合った進路選択を行うことができた。	①各年次の実態に応じたキャリア教育の教材や進路ガイダンスの内容について検討を進める。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			②生徒が主体的に将来を考え、個々の関心や能力、適性に合った進路を実現するための支援を行う。	②生徒一人ひとりの希望進路を実現させるために、個別面談や進路ガイダンス等をととして適切な情報を提供する。	②生徒のニーズに合った情報提供を、適切な時期に行うことができたか。	②生徒一人ひとりのニーズに応じた情報を適切な時期に提供し、進路実現のための支援を行った。	②進路適性検査、レディネステストの活用法を検証し、生徒がより主体的に進路設計をできるようにする。	②進路適性検査やレディネステストの結果を生徒が振り返るだけでなく、教員が助言するための資料として活用できるとよいのではないかな。	②生徒が自分自身の進路について考える上で、進路適性検査やレディネステストの結果を振り返らせることは有効であった。	②進路適性検査やレディネステストの結果を面談等で活用するなどしてより有効活用できるよう検討する。
4	地域等との協働	○地域や外部の諸機関等との連携体制を整備・拡充し、地域と協働した教育活動・学校運営を行う。	○地域や外部機関との連携を通じて「社会とつながる」ことを重視した教育活動の充実を図る。	・地域とつながることのできるボランティア活動の機会を増やし、生徒の参加を促す。 ・地域や外部機関の人材を活用した学習活動を展開する。	・生徒のボランティア活動の機会を増やすことができたか。 ・生徒の「社会とつながる意識」を高める教育活動に取り組むことができたか。	・例年行っている活動に加えて地域のイベントや区の意見交換会に参加し、地域の方との交流を行うことができた。 ・近隣の保育園や地域の高齢者の方のご協力を得て「社会とつながる」学習活動に取り組めた。また、「特色ある高校等教育活動支援事業」による外部講師を招いての授業を実施した。	・生徒会フロンティアの活動について全校生徒に周知を図り、参加者を増やしていきたい。 ・地域においてはさらに新たに学習活動ご協力いただける外部機関や人材を探していきたい。	・ボランティア活動に取り組むことが生徒の自己肯定感を高めることにつながったのではないかな。 ・外部の人材との関わりによって、教育的効果が得られているのではないかな。地域の高齢者が参加した授業では、生徒だけでなく参加した高齢者にとっても有意義な機会となった。	・ボランティアについては、子ども食堂、スポーツフェスティバル、防犯教室、駅前清掃活動等に取り組むことができた。 ・あーすぷらざと連携した外国につながるのある生徒を対象とした進路ガイダンスの開催や、外部の方を招いての授業実践を行うことができた。来年度以降も協力していただける人材や外部機関を増やしていきたい。	・地域でのボランティア活動がより広がるよう地域の方に働きかけていく。 ・生徒が利用することのできる外部機関を検討し、生徒がより地域とつながれるよう努めていく。
5	学校管理 学校運営	①安全、安心な教育環境を維持・推進するとともに、本校の教育活動に適した学習環境の整備を進める。 ②保護者や地域と連携した防災教育活動を進め、生徒の防災に対する意識を涵養する。 ③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。	①生徒の安全を確保し、よりよい学習環境を整える。 ②生徒及び職員の防災意識を高める。 ③事故不祥事を未然に防ぐ環境を作る。	①グラウンド改修工事を安全に進め、安全な生徒の活動場所を確保する。 ・定期的に施設点検を実施し、改修箇所等を早期に発見する。 ・ICTによる学習環境を整える。	①生徒の活動場所を確保し、安全にグラウンド改修工事を終えることができたか。 ・熱中症等に配慮した学習環境を確保できたか。 ・破損箇所の素早い改修を行うことができたか。 ・電子黒板導入のための準備を進められたか。	①工事担当者との連絡を密に取り、学習環境に配慮しながら無事に工事を終了することができた。 ・各HR教室と選択教室に電子黒板を配置し、利用しやすい環境を整えた。	①次年度以降予定されている体育館天井工事なども安全にかつ学習環境を整えられるよう工夫を行う。 ・電子黒板等を有効的に活用できるよう職員研修を継続的に実施していく。	①生徒の安全に配慮した学習環境を整えることができていた。 ・各HR教室や一部の選択教室に速やかに電子黒板を設置し、生徒の学習環境を整えることができた。今後も研修を実施し、より有効活用していけるとよいのではないかな。	①グラウンド工事の進捗状況について、職員の打ち合わせで随時、周知し、生徒の安全確保に努めることができた。 ・年度途中で導入された電子黒板はすぐに授業で活用できるよう速やかに教室にセッティングするとともに、使い方について職員に周知を図った。	①体育館天井工事についても生徒の安全が確保できるよう工事担当者と綿密に打ち合わせを行う。 ・電子黒板やタブレット等のICT機器が有効に活用されるよう適切に設置・保管していく。